

34 明治10年11月30日 菊池長閑

第十号十一月三十日

第九号本月廿日ニ達せり其地未だ残暑除かざる趣日本之候とハ格別なるもの也避暑中高山ニ登たる由恐怖せり鉄道之巧尤恐るゝや廿二日ニ新莊御邸ハ皆様御入有之御相伴輩彼是十四五輩ニ成満座之中ニ於て登山之処読為聞たるニ皆舌を巻たり其中ニ御膳出来跡続事を不得残念其日ハ近頃珍ら敷雨天気にて御帰りも夜ニ入御緩りと被為入大慶せり扱また処々之見物扱々羨敷東京之博覧会エ左に参り兼たれハ海外ハ申も馬鹿ノ敷事ながら屈ものなら見まほしきハ外国也」本月十六日ニ禄券利子貳拾八円十七銭五厘半高にて残りハ来五月渡るよし本月廿五日雪ふり根と成さうニ候一条も同日頃鹿南銀山より戻り直ニ廿八日ニ出立登京せり春迄在京らしく申候本宿ハ本月十二日鹿兒島へ出帆来二月頃まで居るよし先此度ハ別事なし九号返事まで申入候以上

十一月三十日

長閑

武夫殿

(封筒表)

「亞米利加国ポストン府

ホートウイン。ストリート

二十二番

菊池 武夫 殿

要書報平安

(武夫注記)

(封筒裏)

「大日本岩手県陸中国盛岡

外加賀野八十六番地

菊池 長閑

十一月三十日発

(武夫注記)

[And]